

「令和 8 年度（繰越）国スポ・障スポ施設整備事業カヌー・ローイング競技場
コース設営業務委託」に係る設備条件

(1) 設備条件

①カヌースプリント競技

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
1	コース設備	コース	・（公社）日本カヌー連盟スプリントコース公認規定に基づき設置すること。	
			・カヌーコースは、200m 及び 500m コースとする。	
			・レーン幅は 9m/レーン以上とする。	
			・コースは、ローイングと兼用となることから、両競技切替可能なものとする。	
			・水中アンカー工法で設置し、ワイヤー等が水面上に露出しない仕様とすること。	
			・国スポ終了後、使用したコースシステムは存置し、常設化すること。その際、競技団体で調整できるよう水上にウインチを設置し、水位変動に対応できるカウンター方式とすること。	
			・コース設置の工法に関しては、国スポでのコース使用実績があるものを採用すること。	
			・またコースシステムに関しては各メーカーの特許システムがあるため、特許侵害等の無いよう調査した上で選定すること。	
	ワイヤー	ワイヤー	・ワイヤーはφ4mm 程度のメンテナンスが容易なワイヤーを使用すること。また、国スポ後、緊急時や使用しない際はワイヤーの撤去やブイの数量を減らして常設する可能性があるため、自重が軽い樹脂製を使用すること。なお、自動発艇装置の設置に耐えうるよう別途加工を施すこと。	
			・ワイヤーの材質、施工方法は各メーカーの特許システムがあるため、特許侵害等無いよう調査した上で選定すること。	
			・横張りワイヤーは、本大会後常設するため、ローイング競技と転換が可能な仕様とすること。また、転換に関しては、市から指示を受けた場合、競技団体等に転換方法の指導等を行うこと。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
			・コース転換は専門性が伴うため、国内で転換実績があるワイヤー、加工、調整方法を採用すること。	
		ブイ	・コースブイは軟質ブイを使用すること。	
			・ブイのサイズはφ150mm～310mmとし、波等が生じた場合においてもコース全体が視認できる間隔で設置する(25m 間隔以下)。	
			・100m ごとのブイと最後の 100m 区間は赤色とし、他は縦のラインを交互に黄色、白色ブイを設置すること。	
			・スタートとフィニッシュライン両端にはφ400mm ブイと 40cm×40cm 又は 40cm×60cm の赤旗を設置すること。	
			・250m 地点には残り距離表示ブイもしくは残り距離表示板を設置すること。	
			・コースワイヤーに取付けるブイワイヤーは水位変動や波風の影響を軽減するよう可動式とすること。	
		練習水域	・300m 程度の練習水域を設置すること。	
			・φ150mm のブイを使用し、25m 間隔で設置すること。	
			・両端を水中アンカー方式で設置し、水面上にワイヤーが露出しないものとする。	
		航路区画等	・乗降艇棧橋から練習水域へ向かう選手が接触しないよう中心へ400m 程度の航路区画を設置すること。	
			・φ400mm の赤ブイを 25m 間隔で設置し、選手へ明示すること。	
			・両端を水中アンカー方式で設置し、水面上にワイヤーが露出しないものとする。	
2	発艇審判台	2 階建 幅 4m × 奥行 4m 程度 階段, 雨除け, 日除け付き	・水上フロート構造とし、発艇線の延長線上に、風や波による揺れが生じないようにアンカーで堅固に固定すること。	
			・スタート線延長上にスリット板を設置すること。	
			・天幕や横幕など、必要な風雨、日除け対策を施すこと。	
			・仮設トイレ(簡易水洗式トイレ) 1 基を設置すること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
			・水位変動による細かい位置調整が実施出来るよう 4 角に調整用のウインチを設置すること。 ・審判台の栈橋は十分な浮力を確保するため厚みが 50cm 以上の樹脂製のものを使用し、45 m²以上の面積を確保すること。 ・栈橋に関しては水路艇等が係留しやすいようにクリートもしくはアイナットを付属させること。	
			・ 500m、200m レースで移動ができる仕様とすること。	・ リハ大会では 200m レースへの移動仕様は不要とする。
3	決勝審判台		・ 1 レーン 1 段×9 レーンの階段状とし、決勝審判員並びに計時員の 2 名が並列で座れる構造とする。 ・ 各レーンを視認できる高さ及び位置に設置すること。 ・ 決勝線とずれが生じないように、不動のものとする。 ・ 屋根を設置する等、風雨対策を実施すること。 ・ 転倒防止として適宜補強材を設置すること。 ・ スリットワイヤー台は決勝線とずれが生じないように設置すること。 ・ 審判員から視準しやすい位置、高さで設置すること。 ・ ワイヤーはトータルステーションを使用し、設置時は測量士立ち合いのもと設置すること。	
4	カメラタワー		・ ゴール地点に写真判定用カメラタワーを設置すること。 ・ カメラタワーは決勝審判台と独立したものとし、1 から 9 レーンまで決勝線を通過する艇の先端が撮影（確認）できる必要な高さを確保すること。	
5	スリット板	2.0m×1.0m 以上 黒色、黄色塗	・ 500m、200m、フィニッシュの 3 箇所のライン上に陸上固定とすること。 ・ 揺れが無いように単管等で強固に固定すること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
		分け	・ 黒色、黄色の塗り分け部分中心を合わせる必要があるため、設置はトータルステーションを使用し、設置時は測量士立ち合いのもと設置する。	
			—	・ リハ大会では 200m ライン上への設置は不要とする。
6	ランドマーク	1 レーンの表示寸法： 1.8m×1.8m 以上	・ 決勝線の後方約 100m 付近の水上に設置すること。	
			・ 水上フロート構造とし、アンカーにて堅固に固定すること。	
			・ 素材は風の抵抗を考え、アルミパンチングメタルとすること。	
			・ ランドマーク間は運営上、航行できるように 1 レーンごとにアンカーで固定すること。	
7	自動発艇装置	A クラス公認	・ スタート線上に設置すること。	
			・ 自動発艇装置スタート信号（ピストル）と連動するストロボを設置すること。	
			・ 競技期間中、装置のメンテナンス要員を配置して対応すること。	
			・ 動作状況の確認を十分に行うこと。	
			・ 500m レース、200m レースで移動ができる仕様とすること。	・ リハ大会は、500m から 200m レースへの移動ができる仕様は不要とする。
8	艇架台		・ シングル用(最大格納 16 艇)15 基、ペア用(最大格納 16 艇)5 基、フォア用(最大格納 16 艇)2 基で設置を行うこと。	
			・ 上記設置数量は大会規模、参加艇数によって変動するため、設置前に再度実行委員会と打合せして数量を決定する。	
			・ 保管する艇が破損等しないよう、緩衝材等で養生する仕様とすること。	
			・ 十分な安全対策及び養生を行うこと。	
			・ 風等による倒壊が生じないように、設置すること。	

②ローイング競技

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
1	コース設備	コース	・（公社）日本ローイング協会ボートコース規格規則に基づく B 級公認コース対応のコースとする。	
			・ コースは 1000m コースとする。	
			・ 競技レーンは、5 レーン（レーン幅 12.5m）とする。	
			・ 外境レーンは、2 レーン（レーン幅 5m 以上）とする。	
			・ コースは、カヌーと兼用となることから、両競技切替可能なものとする。	
			・ 水中アンカー工法で設置し、ワイヤー等が水面上に露出しない仕様とすること。	
			・ 国スポ終了後、使用したコースシステムは存置し、常設化すること。その際、競技団体が調整できるよう水上にウインチを設置し、水位変動に対応できるカウンター方式とすること。	
			・ 上記コース工法に関しては、国スポでのコース使用実績があるものを採用すること。	
			・ コースシステムに関しては、各メーカーの特許システムがあるため、特許侵害等の無いよう調査した上で選定すること。	
	ワイヤー	ワイヤー	・ ワイヤーはφ4mm 程度のメンテナンスが容易なワイヤーを使用すること。また、国スポ後、緊急時や使用しない際はワイヤーの撤去やブイの数量を減らして常設する可能性があるため、自重が軽い樹脂製を使用すること。なお、自動発艇装置の設置に耐えうるよう別途加工を施すこと。	
			・ ワイヤーの材質、施工方法は各メーカーの特許システムがあるため、特許侵害等無いよう調査した上で選定すること。	
			・ 横張ワイヤーに関しては、カヌー同様、大会後常設していく可能性があるため、カヌースプリント競技と転換が可能な仕様とすること。また、転換方法の指導等を行うこと。	
			・ コース転換は専門性が伴うため、国内で転換実績があるワイヤー、加工、調整方法を採用すること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
		ブイ	・艇やオールに損傷を与えるおそれのない材質とすること。	
			・コース境界ブイは赤色及び黄色のφ150以下とすること。	
			・レーンブイは、0m地点及び1,000m地点には設置せず、1,005m地点に設置すること。	
			・各レーンには250m毎に色の異なるブイ（赤）を設置すること。	
			・ゴールフラッグブイは、ゴールライン後方5m地点の外境用ワイヤーに設置すること。	
			・外境ブイはφ150mm白色ブイを50m間隔で設置すること。	
			・距離表示板が設置できない場所は、一辺1mの立方体の大型ブイをアンカーで固定し、水上に設置すること。	
		練習コース	・練習コースは350～400mコースを5レーン設置すること。コース中心位置は航行禁止レーンとなるため、ターンブイを設置し、航行禁止を明示すること。	
			・ブイのサイズはφ200mmとし、コース境界ブイと区別すること。	
			・選手、船舶利用者がロープやワイヤーに引っ掛かることがないよう両端を水中アンカー方式で設置すること。	
		ステアリング マーカー	・スタートライン後方にコース境界ブイを5m～10m間隔で5個以上設置し、代用する。	
2	発艇審判台		・全レーンの中心線の延長線上で、発艇線より後方約40～50m付近の位置に設置すること。	
			・テーブル、椅子等の必要備品も準備すること。	
			・屋外用防水時計（φ500以上）を、前面及び練習水域方面に各1個設置すること。	
			・レース表示板を前面及び練習水域方面に各1セット設置すること。	
			・前面側の審判席中央部に、記入用の台を取り付けること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
			・浮棧橋に設置し、アンカーで固定すること。その場合アンカー及びアンカーロープ等がコースワイヤー関係に干渉しないように設置すること。 ・構造上風を受けやすく、また地盤が法面である可能性もある為、アンカーの数及び重量を強化するなど、設置には充分注意する。 ・仮設トイレ(簡易水洗い式トイレ)1基を設置すること。 ・設置する棧橋は樹脂製で厚みが30cm程度のものを使用する。棧橋には船舶が係留しやすいようクリート若しくはアイナットを設置すること。	
3	ランドマーク	1レーンの表示寸法： 1.8m×1.8m以上	・ゴール後方約100m以上の水上に設置すること。 ・本大会において、ランドマークは数字表記とすること。 ・水上フロート構造とし、アンカーにて堅固に固定すること。 ・素材は風の抵抗を考え、アルミパンチングメタルとすること。 ・ランドマーク間は運営上、航行できるように1レーンごとにアンカーで固定すること。	
4	発艇補助台 (ステイクボート)		・競技レーンの5艇分用意すること。 ・迅速かつ容易に前後に作動する機能を有すること。 ・艇首を正しく発艇線上に整列できるように施工すること。 ・固定は水中アンカー等で行い、コースレーン等に、影響を与えない構造とすること。なお、地質が軟弱のため、強固なアンカー強度を確保すること。 ・風や波の影響を受けても常にレーンの中心に配置できるようコースワイヤーと干渉しないステイクボート誘導用の横張ワイヤーを水中アンカー方式により、ステイクボート前後に設置すること。	
5	各判定席		・線審席及び中間判定台は、基礎ステージとワイヤー台を本委託とは別に土木工事で整備するため、この上部にテントを設置し、ワイヤー台にワイヤーを取り付けること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
			・線審席には、カメラ、モニターを準備すること。なお、そちらのカメラ、モニターに関しては国スポ使用実績があるものを手配すること。 ・フィニッシュ判定席は基礎を市の工事にて整備し、その上部に仮設単管等を利用し、5人以上が並列で座れる階段式の組立を行う。 ・各種判定台とワイヤー台は揺れが伝わらないよう、部材、補強材ともに独立した構造とすること。 ・各種ワイヤー台は判定ラインとずれが生じないように設置すること。また、審判員から視準しやすい位置、高さで設置する。ワイヤーはトータルステーションを使用し、設置時は測量士立ち合いのもと設置する。	
6	カメラタワー		・カメラタワーは、仮設組立式とし、フィニッシュ延長線上に設置すること。 ・フィニッシュ判定席と独立した安全な構造とし、全レーンを視認可能な高さ、位置で設置すること。 ・転倒防止策を講じること。	
7	見通し板		・線審と中間は、1.0m×2.0m 以上の見通し板を設置すること。 ・フィニッシュは、1.9m×3.8m 以上の見通し板を設置すること。 ・各種見通し板の材質はアルミパンチングメタルとすること。 ・各種見通し板は風などにより、揺れることがないように単管等で強固に固定すること。 ・黒色、黄色の塗り分け部分の中心を合わせる必要があるため、設置はトータルステーションを使用し、設置時は測量士立ち合いのもと設置すること。	
8	距離表示板		・距離表示板が設置可能な場所はブイでなく、陸上に距離表示板を設置すること。 ・距離表示板は 1.0m×2.0m 以上とし、材質はアルミパンチングメタルとすること。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
			・揺れや風で飛散しないよう単管等で強固に固定を行うこと。	
			・500m 箇所に関しては見通し板、中間判定席と位置が同様の箇所となるため、選手の航行にとって良い箇所に設置を行うこと。	

③共通事項

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
1	栈橋		①乗降艇栈橋・出艇帰艇栈橋 (選手乗降用) 6m×50m 2 セット ②審判・水路用栈橋 (カタマラン、和船係留用) 2m×50m 1 セット アルミ製渡り橋 (通行用) ③緊急・修理用栈橋 4m×16m 1 セット (線審席の昇降階段に設置) ④フィニッシュ審判用栈橋 2m×12m 1 セット ⑤ウォーターマン用栈橋 2m×12m 1 セット (ステイクボート乗降員用)	①乗降艇栈橋・出艇帰艇栈橋 (選手乗降用) 4m×26m 2 セット ②審判・水路用栈橋(カタマラン、和船係留用) 2m×50m 1 セット アルミ製渡り橋 (通行用) ③緊急・修理用栈橋 4m×16m 1 セット (線審席の昇降階段に設置) ④フィニッシュ審判用栈橋 2m×12m 1 セット ⑤ウォーターマン用栈橋 2m×12m 1 セット (ステイクボート乗降員用)
			・使用する浮栈橋は、安定性が良く、高さ 300mm 程度の艇が乗降しやすいものを使用する。	
			・栈橋の固定は、アンカー及びアンカーロープにて行う。	
			・材質は、艇が接岸した際、損傷を抑えるため樹脂製のものとし、更に選手が艇を付ける可能性がある①、③の栈橋角に防舷材を設置すること。防舷材は水中へ落下しない仕様とすること。	
			・栈橋の連結金具等の部分で選手が躓かないようフラットな仕様とすること。ボルトや袋ナットが選手の通路上にある場合は、撤去する等の対策を行うこと。	
			・審判用栈橋には係留用のアイナットを設置しておくこと。	
			・カヌー競技においてローイングで使用しない栈橋は乗降用や水路用栈橋の延長や他栈橋として使用すること。	
			・①、②、⑤の栈橋に関してはアルミ製の仮設スロープを設置すること。①のスロープに関しては幅が 2m 程度で長さ 4.0m 程度のものを設置する。	

No.	名称	仕様・規格	特記事項（本大会）	特記事項（リハ大会）
2	安全管理		・本会場、カヌースプリント競技、ローイング競技ともに全国規模の大会を実施するのが初めての会場であるため、各県の選手が分かりやすいように航行規則等を定めた看板を設置すること。看板の内容に関しては、競技団体、実行委員会と打合せし、デザインや看板本体、固定資材は受注者で手配を行う。	
			・ダム湖であるため、水域内に様々な支障物が浮遊している。航行ルートや選手にとって危険が予測されるものには明示ブイ等を設置する。こちら受注者の提案で設置するものや公式練習～大会時に競技団体から指示があった場合、対応できるよう各種資材を現場内に保管しておくこと。	
			・流木の発生等により、レースに支障がでる場合、水路、審判員等打合せを行い、各種除去作業の応援等を行うこと。	
			・ローイング競技においてはゴール後方の距離に余裕が余り無いため、選手が法面等に衝突、競技艇が乗り上がることが無いようコース幅分オイルフェンス等で囲いを設置すること。	
			・大会中は上記のような安全対策の指示が出てくる可能性もあるため、現場技術員を待機させること。	

（２）特記事項

①本大会

本大会後、下記資材は常設もしくは市に譲渡すること。なお、保管場所等に関しては市と協議のもと決定する。

【カヌースプリント競技】

○縦張コースワイヤー1000m（カヌー該当箇所 500m は A 級公認コース加工） 10 本

※8 本は 1000m ローイング 5 レーン、外境 2 レーン B 級公認コース加工

○横張コースワイヤー 4 本（ローイング⇄カヌーコース切替加工）

※国内転換実績がある加工、転換方法で製作

○縦張コースワイヤー調整用ウインチ&カウンターセット 20 セット

※水上(作業船)にてウインチを調整できるよう縦張コースワイヤーの両端に設置。アンカーやロープ等も付属させること。

○横張コースワイヤー調整用カウンターセット 8 セット

※縦張と違い、ウインチは必要ないがテンション、調整が出来るようなロープシステム

を水中に設置し、作業時、船上に引き揚げれるようにすること。

○コースブイφ200mm（赤、黄、白）&取付ワイヤーセット A級公認コース9レーン分

※コースブイとワイヤーセットを大会終了後、常設もしくは譲渡する。コースブイに関しては色合いもあるのでリハ大会、本大会前に新品を持ってくること。

○スリット板（1m×2.0m）アルミパンチングメタル製 3式

※本大会後陸上に固定したスリット板、固定金具等を常設すること。板は常設を考慮して風の抵抗を軽減させるためアルミパンチングメタル製とすること。なお、台風等の悪天候時に取りはずして再設置できるような仕様とすること。

○水上ランドマーク資材（浮桟橋 2m×2m×0.3m 1枚、固定アンカー&ロープ 4セット、ランドマーク板 1.8m×1.8m 9枚（1～9表記）） 9式

※上記水上ランドマーク資材を大会後譲渡すること。1～5に関してはローイングと兼用する。

○レーン表示ブイ（0.7m立方体 0～9 4面表記）&取付ワイヤー 10セット

※大会終了後、上記レーン表示ブイ資材を譲渡すること。縦張ワイヤーに接続できる仕様とすること。

○赤旗ブイ（φ400mm 赤ブイ、□400mm 赤旗付き）&取付ワイヤー 4セット

※大会終了後、上記赤旗ブイ資材を譲渡すること。縦張ワイヤーに接続できる仕様とすること。

○残り距離表示板（2m×1m 250表記）アルミパンチングメタル製 1式

※本大会後陸上に固定した距離表示板、固定金具等を常設すること。板は常設を考慮して風の抵抗を軽減させるためアルミパンチングメタル製とすること。なお、台風等の悪天候時に取りはずして再設置できるような仕様とすること。

○決勝審判席 1式

※9人並列に座れるカヌー決勝審判席と判定ワイヤー台は大会後、常設すること。転倒防止のため、アンカーを設置する場合は協議の上、決定する。なお、カメラタワーに関しては撤去する。

【ローイング競技】

○縦張、横張コースワイヤー、ウインチ調整用カウンターセット等はカヌー資材と兼用。

※上記カヌー500m区間、ローイング1000mコースが同様のワイヤーでそれぞれ加工されておくこと。

○コースブイφ150mm（赤、黄、白）&取付ワイヤーセット B級公認コース5レーン分＋外境レーン2レーン分

※コースブイとワイヤーセットを大会終了後、常設もしくは譲渡する。コースブイに関しては色合いもあるのでリハ大会、本大会前に新品を持ってくること。

○水上発艇台用栈橋 (4m×4m×0.3m) 固定アンカー4本

※大会終了後、水上発艇台の栈橋、固定アンカーの上記資材を譲渡すること。

○水上ランドマーク資材はカヌー資材と兼用

○250m 左右、500m 左右、750m 左右 距離表示板 (2m×1m)、距離表示ブイ (1m 立方体) のどちらかを常設する。大会時に使用した場所に常設しておくこと。ブイを常設した場合、カヌースプリント競技の際に支障とならないよう注意すること。板の場合は風の抵抗を軽減させるためアルミパンチングメタル製とすること。ブイの場合は、汚れで変色が無いよう大会時に新品を設置すること。

○ゴールフラッグブイ (φ300mm、H=300mm 赤ブイ □300mm 赤旗付き) & 取付ワイヤー 2 セット

※大会終了後、上記ゴールフラッグブイ資材を譲渡すること。縦張ワイヤーに接続できる仕様とすること。

○見通し板 1.0m×2.0m 2 セット、1.9m×3.8m 1 セット

※本大会後陸上に固定した見通し板、固定金具等を常設すること。板は常設を考慮して風の抵抗を軽減させるためアルミパンチングメタル製とすること。なお、台風等の悪天候時に取りはずして再設置できるような仕様とすること。

○フィニッシュ判定席 1 式

※5～6 人並列に座れる単管組フィニッシュ判定席と判定ワイヤー台は大会後、常設すること。転倒防止のため、アンカーを設置する場合は協議の上、決定する。なお、カメラタワーに関しては撤去する。

【共通】

○乗降用、出艇帰艇栈橋 4m×26m×0.3m 2 セット アルミ製渡りスロープ 2 式

※大会終了後、乗降用、出艇帰艇で使用した栈橋のうち、上記サイズを譲渡すること。

○本大会時、カヌースプリント競技、ローイング競技で使用する資材は仕様が異なるが、大会時期も近いことから、都度撤去するのではなく、受注者側で提案を行い、現地で有効活用を行うこと。

○コース転換に関しては、本大会後の常設での有効活用を考慮し、コース転換が可能なような加工を施すこと。本大会の設営、撤去期間中に競技団体や市からメンテナンスや転換方法の指導の要請が入った場合、協力を行うこと。

○リハ大会を実施して、各種安全対策や運営に必要な資材が発生する可能性もあるため、現場状況による追加資材の発生を考慮した上で積算、準備を行うこと。資材の過剰な追加等が発生した場合は協議の上、変更契約を行う。

○リハ大会が同年度に実施されることから、本大会前にも修正設計や図面、提出書類が必要となった場合、受注者側で図面や資料作成を行うこと。そちらも諸経費内で考慮し、積算を行うこと。

○カヌースプリント競技において、全艇、自艇参加での可能性も考えられる。それによ

って艇架台の数量等変更となった場合は、現数量、内訳の中で対応を行うこと。過大な数量が必要となった場合、協議の上、変更契約を行う。

- リハ大会を受けてコース位置の変更も考えられるため、公認コース用の再測量や各設備の位置も変更となる可能性があるため、リハ大会同様に本業務においても測量士免許保有者を選任で配置すること。

②リハーサル大会 特記事項

- カヌースプリント競技、ローイング競技で使用する資材は仕様が異なるが、受注者側で提案を行い、現地で有効活用を行うこと。
- コース転換に関しては、本大会後の常設での有効活用を考慮し、コース転換が可能なような加工を施すこと。リハ大会、本大会のどちらかで競技団体や市からメンテナンスや転換方法の指導の要請が入った場合、協力を行うこと。
- リハ大会終了後、基本的に資材類は撤去する予定としているが、市実行委員会と打合せのもと、残置き可能とする。
- 本会場は両競技とも大会開催の実績が少ないため、各種安全対策や運営に必要な資材を考慮した上で積算を行うこと。
- リハ大会が同年度に実施されることから、リハ大会後に修正設計が必要となった場合、受注者側で図面や資料作成を行うこと。そちらも諸経費内で考慮し、積算を行うこと。
- 上記で再測量の必要性も考えられることや実際にリハ大会で初めて公認コースを設置することから本業務においては測量士免許保有者を選任で配置すること。